

学会ニュース

— * 第3号 昭和54年5月1日 —
(1979)

■□■ 本年度第1回理事会開催さる ■□■

1979年度第1回理事会が、3月27日、東京霞が関ビル東海クラブにおいて開催されました。理事会で協議された内容は、①1978年度会務報告ならびに決算について、②第27回全国大会の開催について、③機関誌編集規定・執筆要項の改定について、④入会希望者の承認、などが主なものです。その概要は、以下の記事で紹介します。この他にも、本年度の予算の執行について、機関誌編集担当の高島理事から、機関誌の充実を期するため機関誌関係予算の増額の要請がありました。これについては全理事が、その趣旨に賛同され、予備費の範囲内で増額支出を認めること、および学会誌発行に対する助成制度について、日本学術会議などに働きかけることが決定されました。

■□■ 1978年度会務報告・決算案について ■□■

1978年度決算案が理事会で承認されました。この決算案は理事会に先立ち、監事である田代不二男先生による監査を受け、その公正さを確認されています。

同年度における事業の特徴は、会務日誌に見られるとおり学会ニュースを発刊したこと、入会希望者に対する承認手続きを迅速化するために文書審議を含む理事会回数を増やしたこと、必要に応じて在京理事会を開き業務を円滑に進めてきたこと、機関誌「社会福祉学」の内容充実を図るために編集委員会が発足したことなどがあげられます。

この間、学会員の数も、現在1,236人となり、その規模は次第に大きくなってきています。

なお1980年度からは、新たに名簿印刷費積立金と選挙管理費積立金の特別会計を設けることが承認され、次回総会で新年度予算とあわせて提案することになりました。

1978年度会務日誌

| | | |
|-------|----------|---------------------|
| 1978年 | 3月27日 | 1977年度会計監査 第1回理事会 |
| | 4月10日 | 在京理事会 |
| | 5月 1日 | 「学会ニュース」第1号発行 |
| | 5月17日 | 在京理事会 |
| | 5月20日 | 第2回理事会（新入会員承認・文書審議） |
| | 7月16日 | 在京理事会 |
| | 7月20日 | 第3回理事会（新入会員承認・文書審議） |
| | 9月18日 | 大会事務局打合せ |
| | 9月22日 | 第4回理事会 |
| | 9月23日 | 第5回理事会 |
| | 9月23～24日 | 第26回大会 |
| | 9月24日 | 1978年度総会 |
| | 9月24日 | 第6回理事会 |
| | 11月 1日 | 「学会ニュース」第2号発行 |
| | 12月17日 | 機関誌編集委員会 |

1978年度 日本社会福祉学会 決算書(案)

| | | |
|--------|------------|----------------------------------|
| ・収入決算額 | 4,960,811円 | （自 昭和53年 1月 1日 至 昭和53年12月31日） |
| ・支出決算額 | 3,211,315円 | |
| ・差引剰余額 | 1,749,496円 | |

収 入

（単位：円，△印は減を示す）

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 増 減 | 備 考 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金 | 5,000,000 | 2,449,600 | 1,949,600 | |
| 会 費 | 2,300,000 | 2,416,500 | 116,500 | |
| 機関紙売上金 | 50,000 | 79,240 | 29,240 | |
| 寄 付 金 | 1,000 | 0 | △ 1,000 | |
| 雑 収 入 | 5,000 | 15,471 | 10,471 | 銀行利息名簿売上金 |
| 合 計 | 2,856,000 | 4,960,811 | 2,104,811 | |

支 出

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 比 較 増 減 | 備 考 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-------------------------|
| 大 会 費 | 300,000 | 400,000 | 100,000 | |
| 名 簿 補 正 費 | 100,000 | 0 | △ 100,000 | |
| 機 関 紙 出 版 費 | 900,000 | 900,000 | 0 | |
| 部 会 還 元 費 | 230,000 | 311,050 | 81,050 | 昭和52年度分還元金 |
| 事 務 費 | 400,000 | 369,257 | △ 30,743 | |
| 印 刷 費 | 100,000 | 247,870 | 147,870 | 封筒、入会のしおり 学会ニュース、その他 |
| 会 議 費 | 100,000 | 171,148 | 71,148 | 理事会、編集委員会 |
| 通 信 運 搬 費 | 100,000 | 234,650 | 134,650 | 事務所移転運搬 学会ニュース発送(2回) |
| 出 張 旅 費 | 300,000 | 326,840 | 26,840 | |
| 選 挙 管 理 費 積 立 金 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 名 簿 印 刷 費 積 立 金 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 雑 費 | 20,000 | 500 | △ 19,500 | |
| 予 備 費 | 56,000 | 0 | △ 56,000 | |
| 合 計 | 2,856,000 | 3,211,315 | 355,315 | |

■□■ 第27回全国大会について ■□■

- 大会会場 日本福祉大学
- 大会期日 昭和54年9月23日～24日
- 大会テーマ 児童問題と児童福祉

○主な日程

9月23日(日)

10:00～17:00 自由論題個人研究発表

17:30～19:30 懇親会

9月24日(月)

9:00～12:00 分科会

13:00～14:00 総会

14:00～17:00 シンポジウム

○自由論題個人研究発表応募方法

同封の葉書にご記入のうえ、5月15日までに大会開催事務局までお送りください。

■□■第27回大会開催にあたって■□■

— ふるって多くのご参加を —

去る3月27日に開催された全国理事会において、今年度大会を日本福祉大学で開催することが承認されました。

ご承知のように今年度は国際児童年にあたり、今年度の大会もこれにちなんで「児童問題と児童福祉」というメインテーマを掲げ、児童をめぐる最近の状況を学会として見直し、児童福祉の新しい課題を追求してゆこうということになりました。これは単に福祉の領域だけでなく、医学、心理学、教育学、体育学など他領域の協力を得て、児童の発達や環境、人権上の諸問題を学際的且つ総合的にとらえ、今後の児童福祉の新しい課題と展望を少しでも明確にしてゆこうという試みです。テーマが大きく、取り扱われる問題の専門領域が非常に多岐にわたるために参加者相互の理解をどこまで深めることが出来るか、またこれによって児童福祉の今後の方向づけをどこまで明らかにすることが出来るかといった心配もないわけではありませんが、とにかく参加者全員のご協力を得てなんとかみのりあるものにしていきたいと念願しております。

さて、今年度大会は日本福祉大学を会場にして本学会中部部会が開催を引き受けることになりました。これは中部部会に所属する学会員が、それぞれの大学や現場の実状に応じて大会の運営に無理なく参加して頂き、成功に導こうということです。なにぶんにもこうした試みは本学会はじめてのことであり、どのようなことになるか全く予想もつかないことですが、私共関係者は、これが今後の大会開催の一つのモデルとなるよう最善をつくしてゆきたいと念願しております。

なお、今回の大会では国際児童年にあたり、その前日に中部部会主催による特別講演会の開催を予定しております。これは国際児童年について広く地域住民一般の理解と啓蒙をはかるためにおこなわれるもので、これについても学会員のみなさまのPRとご協力を期待いたしたいと存じます。

終りに日本福祉大学が今年度大会のために、種々困難な状況にあるにも拘らず会場を提供して下さったことを学会員一同、心から感謝申し上げたいと存じます。そうして大会には多くの方々に参加して頂き、それぞれの研究成果のご発表と、みのりある討論がなされることを期待

27日

作業

期大

り

一

学校

学

所

目談所

いたすと共に、本大会を成功に導いて下さいますようご支援とご協力を心からお願い致します。

(大会事務局一高森敬久)

■□■ 機関誌編集規定等の改正について ■□■

「社会福祉学」編集規定・執筆要項が、次のように改正されました。これをきたる9月の総会に報告し、実施できるところから、ただちに実施に移すこととなります。

< 編集規定 >

1. 本誌は日本社会福祉学会の機関誌であって、1年1巻とする。
2. 本誌は原則として本会会員の社会福祉研究の発表および海外における同学者の発表にあてる。
3. 本誌に論説、資料、海外社会福祉研究、書評、文献集録、学会彙報の各欄を設ける。
4. 本誌の編集は編集委員会を通じて行われる。
5. 原稿の掲載は編集委員会の決定による。
6. 原稿は所要の執筆要項に従う。
7. 本誌の編集事務局は機関誌担当理事のもとに置く。

< 執筆要項 >

1. 本誌に発表する論文はいずれも他に未発表のものに限る。
2. 論説、資料欄における一編の長さは原則として400字詰原稿用紙40枚以内とする。
3. 海外社会福祉研究欄は社会福祉およびその研究の動向の発表にあて、その依頼は編集委員会において行う。
4. 書評欄は国の内外の社会福祉研究に関する著書、論文の紹介にあてる。
5. 文献集録欄は、学会員の年度毎の著書、論文、資料の文献集録にあてる。その編集は編集委員会において行う。
6. 学会彙報は、大会、部会などの活動状況の紹介にあてる。
7. 投稿は原則として自由投稿とする。自由投稿のメ切は、毎年3月10日、9月10日の2回とする。
8. 執筆上の細目についての注意はつぎの如くである。

なお当日引続き理事会開催、議題・53年度学会大会開催の件

◇ 支部大会・総会

昭和53年9月17日(日)、札幌市東区天使女子短大講堂において第17回北海道福祉学会を開催、会員並びに一般約百人の参加者があり盛会であった。なお当日のプログラムは次の通りである。

- | | | |
|--|---------------|-------|
| 開会の挨拶 | 代表理事 | 三吉明 |
| ○ 個人研究報告 | 司会 北星学園大学教授 | 太田義弘 |
| 1. イギリスの地域一般病院におけるMSW活動 | 天使病院ケース・ワーカー | 三田村玲子 |
| 2. わが国における社会保障制度の現状について | 道都大学助教授 | 矢野根善八 |
| 3. 少年非行に関する調査に現われた家庭と少年非行の関連について | 札幌市青少年問題研究所次長 | 板垣弥之助 |
| 4. 高齢化社会の経営問題へのアプローチ | 室蘭文化女子短期大学講師 | 高内知海 |
| 5. 工業都市における老人実態調査 | 道都大学講師 | 後藤昌彦 |
| ○ 特別講演 | | |
| 「家族計画と家族福祉」—国際会議に出席して | 藤女子大学教授 | 後藤平吉 |
| ○ 北海道社会福祉学会年次総会 予算、決算、新年度研究活動、52年度収支決算報告 | | |
| 閉会の挨拶 | 代表理事 | 三吉明 |

◇ 機関誌会報第4号発刊

昭和54年1月25日、久しく休刊中の「北海道社会福祉研究」の第4号(B4・34頁)が発刊となり、5篇の学術論文が収録されている。

◇ 会員数

54年3月現在、個人会員92名、団体会員7団体の加入がある。(三吉記)

後記

若葉の美しい季節の4月は、また人事の時期でもあります。学会事務局もご多分にもれず、過去1年間事務をとっていた石本嬢が退職され、新たに雲祐二さんが事務局の実務を担当することになりました。上智大学大学院に籍を置く気鋭の若ものです。これまで同様、よろしくご指導ください。(根本記)

・発行所 日本社会福祉学会 ・〒100 東京都千代田区森が関3-3-4 全社協内 ・TEL 03-581-4655
・発行人 一番ヶ瀬康子 ・編集人 永田幹夫
